

# 地勢・沿革

## 1-1. 地 勢

越谷市は、埼玉県東部の東南部に位置し、東京都心から北へ25kmの地点にあり、首都圏の衛星都市的性格を持っている。

市制施行時（昭和33年11月）の人口は、わずか4万8千人余りであったが、昭和37年地下鉄日比谷線と東武鉄道の相互乗り入れによって都心への通勤時間が1時間以内という交通の便に恵まれ、社会的にも、経済的にもその影響をうけ、人口は急激な増加を続けてきた。

令和3年4月には、第5次越谷市総合振興計画を施行し「水と緑と太陽に恵まれた みんなが活躍する安心・安全・共生都市」をめざして、市民が「越谷に住み続けたい」と実感できる魅力的なまちづくりを進めている。

## 1-2. 位置と面積

当市は、東西8.6km、南北11.5km、広さ60.24km<sup>2</sup>の方形をした輪郭を示し、大宮台地と下総台地の間に挟まれた埼玉東部低地帯の一角を占め、土地は丘陵がなく平坦である。周囲は春日部市、さいたま市、川口市、草加市、吉川市、松伏町の5市1町に隣接している。東縁を古利根川に、西縁を綾瀬川に挟まれ、中央を元荒川が貫流している。

市域の土地の地目別割合は、水田が14.3%、畑6.2%、宅地41.4%、雑種地、山林、原野、池沼、その他が38.1%である。



### 1-3. 沿革

#### ★ 町村合併

昭和29年11月3日、埼玉県南埼玉郡桜井村、新方村、増林村、大袋村、出羽村、蒲生村、荻島村、大相模村、越ヶ谷町、大沢町を廃し、その区域をもって越谷町として成立した。

※ 人口：4万4,595人

桜井村3,258人、新方村2,603人、増林村5,012人、大袋村3,954人、荻島村3,408人、出羽村3,930人、蒲生村4,434人、大相模村4,114人、越ヶ谷町8,020人、大沢町5,862人（市町村合併史より）

昭和30年11月3日、埼玉県北足立郡草加町大字伊原、上谷及び麦塚の区域を南埼玉郡越谷町に編入する。

#### ★ 市制施行

昭和33年11月3日、市制施行。埼玉県下22番目、全国543番目。

※ 市制施行に係る人口：4万8,318人

地区の人口

桜井3,402人、新方2,691人、増林5,054人、大袋4,151人、荻島3,478人、出羽4,010人  
蒲生4,988人、川柳1,275人、大相模4,265人、越ヶ谷8,833人、大沢6,171人

年 月 日	西 暦	区 別	合併・境界変更等の状況
明治22年 4月 1日	1889		町村制発布により越谷各地区の旧村合併 2町8か村
昭和29年 11月 3日	1954	合 体	越谷地区の2町8か村合併され越谷町誕生 人口4万4,595人
昭和30年 11月 3日	1955	境界変更	草加町の一部（大字伊原、上谷、麦塚）を越谷町に 編入
昭和33年 11月 3日	1958	市制施行	越谷市誕生。人口4万8,318人、8,390世帯
昭和43年 4月 1日	1968	境界変更	草加市の一部（柿ノ木町及び青柳町の一部）編入 越谷市の一部（千疋、麦塚の一部）草加市へ編入
昭和51年 9月 7日	1976		人口20万人突破
昭和60年 5月 10日	1985		人口25万人突破
平成 8年 12月 27日	1996		人口30万人突破
平成15年 1月 1日	2003	境界変更	越谷市の一部（千間台西1・3・4丁目の一部）と春日部 市の一部（千間1丁目の一部）の境界を変更

#### 1-4. 越谷の歴史

越谷市は、関東ローム層といわれる大宮台地と下総台地の間に挟まれた埼玉県東南部の低湿地帯に位置し、西端に綾瀬川、中央に元荒川、東端に古利根川が、それぞれ東南に向かって流れている。近世以前、これらの川は、利根川、荒川の本流であり、この流れによる土砂の堆積作用で発達した自然堤防に人々が集落を作り稲作農業を展開したのは、きわめて古い年代にさかのぼる。

昭和41年に発掘された見田方住居跡は、6、7世紀飛鳥、奈良時代のものと推定されており、四条・別府、大里、四丁野などの条里制の遺名と思われる地名が多くあった。さらに奈良、平安時代の創立と伝えられる西方の大聖寺、野島の浄山寺をはじめ、その他主な神社仏閣の創立年代はほとんど中世のものといわれ、こうした宗教集団の造立に付随して造塔された板石塔婆が、建長元年（1249）のものをはじめ、天正年間（1573～91）までのものが数多く残っている。このことは越谷の村々はずでに中世には、かなり発展していたことを物語っている。

市内には、古代、中世の歴史的文献で現存しているものは少ないが、西方大聖寺には元龜3年（1572）の北条氏繁の掟、天正14年（1586）の福島又八郎の制札が所蔵されている。また天正18年（1590）関東を支配していた北条氏が滅亡、かわって徳川氏の領地となり、翌19年家康の朱印による寺領寄進状が越谷各地の主な寺院に与えられ、この朱印状が現存している寺院が数多く見られる。

慶長5年（1600）関ヶ原戦の勝利によって事実上天下を掌握した徳川政権は耕地の拡大と生産力の増大をはかるため関東代官、伊奈氏などの奉行によって利根川、荒川の瀬替えをなすと共に流域一帯の積極的な治水、開墾に努めた。越谷においてはすでに会田出羽資清などにより出羽堀の開鑿や出羽地区の開発が進められ、さらに出羽一族の七左衛門政重によって七左衛門地区の開拓がなされてきた。

一方幕府においても慶長年間（1596～1614）に瓦曾根溜井を設け、八条用水路、四ヶ村用水路、葛西用水路、谷古田用水路、本所上水道、松伏よりの鷺後用水路（逆川）などのもとを作り、この地帯における水田開発と生産力の増大を可能にした。また、奥羽日光街道の中筋にあたる地理的条件から、寛永時代以来、参勤交代、日光廟参詣などの宿場町として賑わいを見せた。

近代においては、明治26年に鉄道馬車が、同32年東武鉄道が開通し、大正2年電灯がとまり、しだいに近代への道を歩みはじめた。

## 1-5. 越谷の自然環境

### (1) 気象

越谷地方の気象的特色は、風向、風速とも臨海型を示すこと、埼玉県では最も風量が少ないこと及び最も気温が高い地域に属していること、この三点に要約できる。

このうち臨海型の風系は、東京湾から最寄りの位置にあるだけでなく、大宮、下総両台地間の低地筋という地形の影響もかなり受けたものである。このほか埼玉県の中では、ひょう、霜、雷雨などの気象災害の少ない地域に属しているが、水害だけは例外である。

### (2) 地形

越谷の地形は、一見まったく変化に乏しく単調であるが、詳細にみると、ふたつの対照的な地形に分かれている。

そのひとつは、古利根川、元荒川、綾瀬川の両岸に形成された自然堤防の微高地であり、もうひとつは、そこから遠く離れ溢流水の堆積作用をあまり受けなかった後背低湿地である。そして、集落と畑をのせて帯状に配列する自然堤防と、広々とした水田景観を広げながら点綴状に分布する後背低湿地とが、平坦な越谷市域の微地形と、土地利用とにそれなりの変化をもたらしている。

### (3) 地質・土壌

越谷地方の表層地質は、ほとんど粘土と砂の互層からできた沖積層である。最上層に上部粘土層、次層に上部砂層、第3層に下部粘土層、最下層に下部砂層が分布している。

越谷地方で、普遍的にみられる土壌は、25%程度の砂を含む埴壤土、壤土、砂壤土、砂土の順に分布している。

### (4) 動植物

越谷市に生育する常緑広葉樹の代表的な植生は、スダジイ林とシラカシ林（ケヤキ等含）である。特に越ヶ谷久伊豆神社本殿裏には小規模ながら自然植生に近いスダジイ林が残存している。草原地では、古利根川や元荒川の河川敷にはヨシ（アシ）・ススキ・クサヨシ等の湿生植物群落やヨモギ・カモジグサ等の乾性の草本群落が見られる。水田や畑地にはスズメノテッポウ・タネツケバナ・ハコベ・イヌビエ等の耕地雑草群落が生育している。また、市役所前の葛西用水にはキタミソウ群落があり、環境省及び埼玉県の絶滅危惧種に指定されている。

平成29年度（2017年度）から令和2年度（2020年度）に行われた越谷市いきもの調査2017-2020では、自然環境の目安となる指標生物として定めた50種類の生きものうち、植物9科10種、鳥類13科16種、昆虫類11科15種、は虫類2科2種、両生類2科3種、貝類1科1種、哺乳類5種が報告された。植物ではキタミソウの報告数が平成24年度に行われた第4次ふるさといきもの調査と比べ、増加傾向にある。昆虫類では、温暖化の指標とも考えられているナガサキアゲハやツマグロヒョウモンが越谷市内でも確認されている。

1-6. 越谷市略年表

西暦	年代	事 歴
BC2000頃	縄文後期	・ 越谷地域は海であった。周辺台地上にはこの頃の貝塚や住居跡が発見されている。
BC300～ AD200	弥生期	・ この頃から越谷地域の陸化が進んだ。
710	和銅 3年	・ この頃見田方地域に集落がつくられ、人々の生活が営まれていた。（見田方住居跡）
750	天平勝宝 2年	・ 大相模不動坊（西方の大聖寺）が建てられたと伝えられる。
860	貞観 2年	・ 天台宗慈福寺（野島の浄山寺）が建てられたと伝えられる。
1040～ 1045	長久・寛徳 年間	・ 野与党の一族古志賀谷二郎や大相模二郎が越谷に定住、野与党の氏神久伊豆社が建てられたと伝えられる。
1249	建長 元年	・ 越谷市最大、最古の板碑が建立（御殿町）
1594	文禄 3年	・ 利根川を太日川（現江戸川筋）へ瀬替えしたことにより、旧来の利根川は古利根川となる。
1602	慶長 7年	・ 越ヶ谷町が新たに宿場町として造成
1604	9年	・ 越ヶ谷御殿が建てられる。（増林字城の上から移す。）
1629	寛永 6年	・ 荒川が熊谷で入間川に流され、旧河道は元荒川となる。 ・ 草加宿が形成され、日光街道がほぼ現在の国道旧4号となる。
1657	明暦 3年	・ 江戸城焼失のため越ヶ谷御殿を江戸城へ移す。
1696	元禄 9年	・ 越ヶ谷町にはじめて伝馬代助郷制度が決められる。
1717	享保 2年	・ 方言学者越谷吾山が越ヶ谷に生まれる。
1750	寛延 3年	・ 国学者渡辺荒陽が恩間に生まれる。
1816	文化 13年	・ 越ヶ谷の山崎篤利が平田篤胤の門人となる。
1889	明治 22年	・ 町村制によって、越谷2町48か村が2町8か村に統合される。
1893	26年	・ 千住から粕壁町まで馬車鉄道が開通し、大沢大松屋前に停車場が設けられる。
1899	32年	・ 東武鉄道が開通し、蒲生、大沢に駅ができる。
1908	41年	・ 宮内庁埼玉鴨場が大林に設置 ・ 越ヶ谷町の電話、東京越谷間が開通
1913	大正 2年	・ 越ヶ谷、大沢にはじめて電灯がともる。
1920	9年	・ 越ヶ谷駅が設置され、旧越ヶ谷駅は武州大沢駅となる。
1923	12年	・ 関東大震災。越谷では死傷者80名、全半壊家屋1309戸の被害
1925	14年	・ 東武鉄道の西新井～越ヶ谷間が電化
1926	15年	・ 町立越ヶ谷実践女子学校が設置（現在の県立越ヶ谷高等学校） ・ 東武鉄道の越ヶ谷～粕壁間が電化
1941	昭和 16年	・ 越ヶ谷久伊豆神社の藤が県の天然記念物に指定される。
1947	22年	・ 6・3制により、越谷各地区に新制中学校が開校
1954	29年	・ 越谷地区2町8か村が合併し、越谷町となる。
1955	30年	・ 草加町の伊原、上谷、麦塚を越谷町に編入
1956	31年	・ 越谷地域に生息する「シラコバト」が国の天然記念物に指定される。
1958	33年	・ 越谷上水道が敷設通水

西暦	年代	事 歴
1958	昭和 33年 11月	・ 越谷町が市制施行し、越谷市が誕生
	12月	・ 初の市長選において、大塚伴鹿氏当選、初代市長になる。
1959	34年 10月	・ 市制施行後初の市議選。代表30人決まる。 ・ 市消防署開署、消防車を購入 ・ 都市計画の基本計画を策定
1960	35年 7月	・ 越谷松伏水道組合発足
	9月	・ 人口5万人を突破
1961	36年 3月	・ 越谷で初めてガンの検診始まる。
1962	37年 1月	・ 越谷市開発公社設立
	5月	・ 大相模見田方地内で古墳時代の土師器が発見される。 ・ 救急車を購入し消防署に配備、救急活動を開始 ・ 地下鉄日比谷線が東武伊勢崎線北越谷駅まで相互乗り入れを開始
	11月	・ 市長選において、大塚伴鹿氏再選
1964	39年 8月	・ 地下鉄日比谷線が中目黒駅まで全線開通
1965	40年 10月	・ 埼玉県東部清掃組合発足
	11月	・ 県民の鳥に「シラコバト」が決まる。
1966	41年 11月	・ 市長選において、大塚伴鹿氏3選
	12月	・ 大相模見田方住居跡の発掘開始
1967	42年 8月	・ 消防署庁舎新築、鉄筋コンクリート3階建となる。
	10月	・ 埼玉国体開幕、バドミントン競技が越谷市立体育館で開催 ・ 人口10万人を突破
1968	43年 4月	・ 5か年計画で越谷市史編さんに着手
1969	44年 3月	・ 市役所旧本庁舎完成
	4月	・ 県立越谷北高校開校
	10月	・ 第一学校給食センター完成
1970	45年 10月	・ 大塚伴鹿氏が市長退任
	11月	・ 市長選において島村平市郎氏が当選 ・ 島村平市郎氏が市長就任
1971	46年 2月	・ 消防署谷中分署開署
	6月	・ 県立越谷青年の家が増林地区に完成
1972	47年 6月	・ 越谷市総合振興計画の基本構想を策定
1973	48年 3月	・ 消防署蒲生分署開署
	4月	・ 武蔵野線の新松戸～府中本町間が開通、南越谷駅が開設
	10月	・ 島村平市郎氏が市長退任
	11月	・ 市長選において黒田重晴氏が当選 ・ 黒田重晴氏が市長就任 ・ 市営斎場完成
1974	49年 3月	・ 市内初の土地区画整理事業が北越谷地区で完了
	4月	・ 県立越谷南高校開校 ・ 北越谷地区が行政区域となる。

西暦	年代	事 歴	
1974	昭和 49年	5月	・ 第二学校給食センター完成
			・ 総合公園が完成
		6月	・ 越谷市開発指導要綱施行
		7月	・ 東武伊勢崎線に武蔵野線南越谷駅との連絡駅である新越谷駅が開設
1975	50年	9月	・ 寝たきり老人のための移動浴そう車「しあわせ号」が開始
		11月	・ スポーツ・レクリエーション都市宣言をする。
		2月	・ 総合振興計画中期計画策定
1976	51年	4月	・ 蒲生第二小学校に障害児学級を設置
			・ 市立高等看護学院開校
		1月	・ 越谷市立病院開院
1977	52年	4月	・ 肢体不自由児通園施設「あけぼの学園」が開園
			・ 人口20万人を突破
		3月	・ 消防署間久里分署開署
1978	53年	4月	・ 県立越谷養護学校開校
		11月	・ 市長選において島村慎市郎氏が当選
			・ 黒田重晴氏が市長退任
			・ 島村慎市郎氏が市長就任
		1月	・ 都市総合交通規制を実施
1979	54年	2月	・ 市長電話を開設
			・ 越谷市立病院が越谷市医師会に加盟
		5月	・ 勤労者住宅資金貸付制度発足
		11月	・ 総合振興計画第2次中期計画策定
		4月	・ 市民憲章制定。市の歌・市の木・市の花制定
1980	55年	4月	・ 県立越谷西高校開校
			・ 市立高等看護学院が市立看護専門学校となる。
1981	56年		・ 県立しらこぼと水上公園開園
		8月	・ 越谷コミュニティセンター開館
		5月	・ 知的障害者通所授産施設「しらこぼと職業センター」開所
1982	57年	12月	・ 市立あだたら少年自然の家が二本松市に完成
		3月	・ 市立北体育館完成
		7月	・ 埼玉県東部清掃組合第二工場完成
1983	58年	11月	・ 市長選において島村慎市郎氏が再選
		3月	・ 市立南体育館完成
		4月	・ 県立越谷東高校開校
		9月	・ 12日、台風18号が直撃、浸水家屋6403戸
		11月	・ 法務局が東越谷9丁目に移転
1983	58年	12月	・ 越谷警察署が東越谷6丁目に移転
		4月	・ 東越谷4丁目に市立図書館開館
		11月	・ 市制施行25周年、文化都市宣言記念式典開催
		12月	・ 消防署大相模分署開署

西暦	年代	事 歴
1983	昭和 58年 12月	・ 「越谷ひな人形」が埼玉県伝統的手工芸品指定される。
1984	59年 3月	・ 越谷総合食品地方卸売市場開設
	4月	・ 第2次総合振興計画基本構想策定 ・ 特定行政庁となる。
		・ オーストラリアのニュー・サウス・ウェールズ州キャンベルタウン市と姉妹都市提携調印
		・ 老人福祉センター「けやき荘」開館
	5月	・ 市立西体育館完成
	9月	・ 「越谷張子だるま」が埼玉県伝統的手工芸品指定される。
1985	60年 3月	・ アメニティタウン計画決定
	4月	・ 防災行政無線を市内98か所に設置
	5月	・ 人口25万人を突破
	7月	・ 全国初のふれあい公園制度（借地方式）が開始
	10月	・ 市長選において島村慎市郎氏が3選
	11月	・ 市立病院で世界初の卵管内受精による赤ちゃんが誕生 ・ 行政改革大綱策定
1986	61年 4月	・ 県立越谷総合技術高校開校 ・ キャンベルタウン市から初の公式使節団来市
	5月	・ あだたら高原「ふれあいの森」の植樹開始
1987	62年 3月	・ 久伊豆神社周辺と宮内庁埼玉鴨場を「越谷市環境保全区域」に指定
	5月	・ 市立児童館「コスモス」開館
	7月	・ 小鹿野町に市民保養施設「おがの山荘」開館
	9月	・ 市立総合体育館完成
1988	63年 4月	・ 県立越谷西養護学校開校 ・ キャンベルタウン市に日本家屋「越谷亭」を贈呈
	5月	・ 市立病院と中国・丹東市第一病院が友好病院提携
	6月	・ 市立保健センター開館 ・ 越谷市教育委員会とハワイ州教育委員会が「教員相互派遣協定書」を締結
	8月	・ 市道30路線に愛称を決定
	10月	・ あだたら高原「ふれあいの森」の植樹完了
	11月	・ 北部市民会館が開館 ・ 「シラコバト」を市の鳥に制定
1989	平成 元年 1月	・ 建設省から昭和63年度インテリジェントシティの指定を受ける。
	4月	・ 市立図書館にコンピュータ導入
	7月	・ 越谷都市計画都市高速鉄道東武鉄道伊勢崎線連続立体交差事業着工
	8月	・ 越谷駅に西口が開設
	10月	・ 市長選において島村慎市郎氏が4選
	11月	・ 初代市長で名誉市民の大塚伴鹿氏の越谷市葬が行われる。
1990	2年 3月	・ 吉川市と越谷市を結ぶ吉越橋が開通
	8月	・ 花田第六公園に長屋門完成

西暦	年代	事 歴	
1990	平成 2年	9月	・ 市民能楽育成事業が開始
		10月	・ 環境庁から「アメニティあふれる優良地方公共団体表彰」を受ける。
1991	3年	3月	・ 建設省から「うるおい・緑・景観モデル事業」の指定を受ける。
		4月	・ 第2次総合振興計画後期基本計画が開始
		5月	・ 「県東南部都市連絡調整会議」が発足
		8月	・ 自治省から「地域情報ネットワーク整備構想」の指定を受ける。
		9月	・ 台風18号が襲来、床上浸水（1,207戸）等の被害
		10月	・ 近隣公園として全国初の本格的日本庭園「花田苑」が開園
			・ 第2次総合振興計画後期基本計画実現のため、9年ぶりに機構改革を実施
			・ 大杉橋が開通
			・ 越谷市初の国際会議「第7回日仏アメニティ会議」が開催
		11月	・ 「地域づくり全国交流会議」が開催
	・ 貯水量40万トンの「大吉調節池」が完成		
1992	4年	2月	・ 新栄橋が開通
		2月	・ 向畑橋が開通
		4月	・ 「中央市民会館」が開館
		8月	・ 越谷コミュニティセンターに「南部出張所」開設
		8月	・ 都市景観を考える「国際景観シンポジウム'92こしがや」を開催
1993	5年	9月	・ 環境庁から地球温暖化防止の実験都市「エコトピア2000」に指定される。
			・ フランス・ディジョン市で越谷市設計の日本庭園の起工式が行われる。
		3月	・ 「越谷市エコトピア計画」を策定
1994	6年	5月	・ 日本文化伝承の館「こしがや能楽堂」開館
			・ 市立老人福祉センター「くすのき荘」開館
		6月	・ 資源化センターに全国初のフロン回収装置を導入
		10月	・ 東武鉄道伊勢崎線高架化の下り線の一部が開通
			・ 市長選において島村慎市郎氏が5選
1995	7年	2月	・ 救急救命士（1月誕生）による高規格救急車稼動
			・ 農林水産省主催の「農村環境保全機能シンポジウム」が開催される。
		4月	・ 「総合福祉計画」策定
			・ 資源化センターに不燃ゴミの最終残渣ゼロを目指し比重差選別機を導入
		8月	・ 不動橋（架け替え）が開通
		9月	・ 越谷市民球場開設
			・ 建設省の平成6年度環境共生モデル都市（エコシティ）に指定される。
		10月	・ 市立図書館に「野口富士男文庫」を開設
		11月	・ 東武鉄道伊勢崎線高架化の上り線も一部が開通し、元荒川以南の8踏切が解消される。
			・ 斜長橋のしらこぼと橋が開通
1995	7年	1月	・ 阪神・淡路大震災へ救援活動
		4月	・ 都市防災河川構想を策定
		・ 市内の6小中学校が埼玉県環境教育推進モデルゾーン指定校となる。	

西暦	年代	事 歴	
1995	平成 7年 5月	・ 児童館「ヒマワリ」開館	
		・ 赤山交流館開館	
	8月	・ 県立越谷西高校が甲子園初出場	
		・ 公共施設案内・予約システム「越谷コミネット」が運用開始	
	9月	・ 「キャンベルタウン野鳥の森」開園	
	10月	・ 24000キロワットの発電能力の埼玉県東部清掃組合第一工場発電所が稼働	
		・ 群馬県高崎市と「災害時における相互応援に関する協定」を締結	
	1996	8年 4月	・ 消防署大袋分署開署
			・ 「越谷甲冑」が埼玉県伝統的手工芸品に指定される。
		5月	・ 大沢北交流館開館
・ 市立病院の増築棟が業務を開始			
		・ 「キャンベルタウン野鳥の森」で、公立動物園では全国初のクルマサカオウムの人工孵化に成功	
		・ 「レイクタウン整備事業」が都市計画決定	
		・ 文部省から平成8・9年度科学技術・理科教育推進モデル地域に指定される。	
6月		・ 緑の森公園越谷市弓道場開設	
		・ 都市防災河川等整備構想に基づく防災取水ピットとマンホール第1号が完成	
7月		・ 福島県二本松市と「災害時における相互応援に関する協定」を締結	
10月		・ 越谷コミュニティセンターに南部図書室開設	
12月		・ 人口30万人を突破	
1997	9年 3月	・ 東武鉄道伊勢崎線が越谷駅以南で高架複々線となり新越谷駅にも準急停車	
		・ 越谷市保育ステーションを新越谷駅前に開設	
	4月	・ 浴そう付介護ベッドの貸し出しを開始（全国初）	
		・ 県東南部5市1町で構成する社会福祉法人「東埼玉」が重症心身障害児施設「中川の郷」開所	
		・ 八潮越谷線の「相生陸橋」開通	
	10月	・ 市長選において板川文夫氏が当選	
	11月	・ 島村慎市郎氏が市長退任	
・ 板川文夫氏が市長就任			
	・ 市立病院内の「おおぞら学級」と東越谷小学校、東中学校が双方向の通信システムで結ばれる（院内学級と学校間で全国初）。		
1998	10年 4月	・ 市立病院の増改築工事が完了する。	
		・ 休日の歯科当番医制度が開始	
	5月	・ 生涯学習、コミュニティ、地域福祉、防災救援の機能をもつ蒲生公民館「パコム」が開館	
		・ 農業技術センター開設	
	9月	・ 24時間巡回型ホームヘルプサービスを開始	
11月	・ 市制40周年記念式典挙行。市のシンボルマーク、越谷市子ども憲章を発表		
1999	11年 1月	・ 新越谷駅の駅ビルに「子育てサロン」を開設	
		・ 都市計画マスタープラン及び緑の基本計画を策定	

西暦	年代	事 歴
1999	平成 11年	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月 ・ 「埼玉県東部清掃組合」が「東埼玉資源環境組合」に改称</li> <li>・ 河川防災ステーションと新方公民館の複合施設「なのはな」を開館</li> <li>・ 埼玉県立大学が三野宮に開学</li> <li>6月 ・ 北越谷駅～保健センター・くすのき荘にバス路線が新設される。</li> <li>9月 ・ 福祉憲章を制定</li> <li>10月 ・ 情報公開制度施行</li> <li>・ 生活サポート事業、知的障害者介護人派遣事業を開始</li> </ul>
2000	12年	<ul style="list-style-type: none"> <li>2月 ・ 市役所第二庁舎が完成</li> <li>4月 ・ 第3次越谷市総合振興計画が開始</li> <li>・ 介護保険制度施行</li> <li>7月 ・ 生涯学習センター開設</li> <li>10月 ・ 越谷市まちをきれいにする条例を施行</li> <li>11月 ・ 桜井公民館「あすばる」開館</li> </ul>
2001	13年	<ul style="list-style-type: none"> <li>3月 ・ 東武鉄道伊勢崎線の高架複々線化が完成</li> <li>5月 ・ 科学技術体験センター「ミラクル」開設</li> <li>7月 ・ 男女共同参画支援センター「ほっと越谷」開設</li> <li>10月 ・ 新しい斎場をPFI事業方式で建設することを決定</li> <li>・ 市長選において板川文夫氏が再選</li> </ul>
2002	14年	<ul style="list-style-type: none"> <li>6月 ・ 増林保育所に市内初の「地域子育て支援センター」開設、一時保育や相談事業開始</li> <li>11月 ・ 南越谷公民館「パレット」が南越谷小学校との複合施設として、小学校プールと学童保育室を併設して開館</li> <li>・ しらこぼと運動公園競技場が完成し、こけら落としとして第47回市民体育祭中央大会を開催</li> <li>・ 越谷市民プールと市内3館目の老人福祉センター「ゆりのき荘」との複合施設「いきいき館」開設</li> <li>12月 ・ 商工まつり・農業祭・埼玉東部工業展・伝統的手工芸品展を一堂に会して第1回こしがや産業フェスタを開催</li> <li>・ 福祉保健オンブズパーソン制度が施行</li> <li>・ 小児夜間急患診療所を神明町2丁目に開設</li> </ul>
2003	15年	<ul style="list-style-type: none"> <li>1月 ・ 春日部市との境界変更を実施</li> <li>3月 ・ 東武伊勢崎線と地下鉄半蔵門線・東急田園都市線が相互乗り入れを開始</li> <li>4月 ・ 川口市、所沢市に続いて県内3番目の特例市となる。</li> <li>・ 防災体験コーナーを備えた4階建の消防本庁舎が開設、消防本部が4課体制となる。</li> </ul>
2004	16年	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月 ・ 市民と行政が一緒になってまちづくりを進める拠点として、各公民館に地区センターを設置、証明書発行・各種相談・文書回送などの業務を開始</li> <li>5月 ・ キャンベルタウン市長をはじめとする使節団が来市し、キャンベルタウン市との姉妹都市提携20周年式典を開催、11月には板川市長が同市を訪問</li> </ul>

西暦	年代	事 歴	
2004	平成 16年	8月	・ 県東南部5市1町の相互利用施設と市内の公共施設の利用申込みや生涯学習講座の参加申込みがインターネットからできる生涯学習予約案内システム「まんまるよやく」の運用開始
		9月	・ 彩の国まごころ国体開催、しらこぼと運動公園で成年女子サッカー、総合体育館で成年男子バレーボール、市民球場で成年軟式野球が行われる。
		10月	・ 国道4号東埼玉道路の側道部分が、八潮市八條から本市増森2丁目までの5.4k mで開通
		11月	・ スポーツ・レクリエーション都市宣言30周年を記念して「こしがやスポーツ・レクリエーションフェスティバル2004」を開催
2005	17年	4月	・ 越谷市・吉川市・松伏町を管轄する「越谷公共職業安定所」が入居する「産業雇用支援センター」が東越谷に開設 ・ 市内2か所目の「地域子育て支援センター」が南越谷保育園に開設
		7月	・ 実効性を確保するための苦情処理委員を設置した男女共同参画推進条例を施行
		8月	・ 通夜や告別式ができる葬祭場を備えた新しい斎場をP F I 事業方式で開設
		10月	・ 市長選において板川文夫氏が3選
2006	18年	3月	・ 選択と集中の事業展開のために第4次越谷市行政改革大綱と実施計画（集中改革プラン）を策定
		4月	・ 地域からの市民の自主的、主体的取り組みを重視した第3次越谷市総合振興計画後期基本計画が開始 ・ 荻島地区センター・公民館「たんぽぽ」開館 ・ ゴミの減量・資源化のため、新たに「ペットボトル」、「白色トレイ」など15分別での収集を開始
		5月	・ 市内3か所目の子育て支援センター「たけのこ」がおおたけ保育園に開設
		8月	・ 越谷駅西口土地区画整理事業の完了に伴う町名地番整備により赤山本町が誕生
		11月	・ 病気の回復期にあるが集団での保育が困難な児童の一時保育を実施する病後児保育室を赤山本町に開室 ・ 市のホームページをリニューアルして「簡単手続きナビ」、「越谷マップ」などの便利な機能を加え、自主財源確保のため広告掲載を開始
		2007	19年
		10月	・ 越谷コミュニティセンター内に県内8カ所目となる越谷社会保険事務所が開設
		11月	・ 啓発・資源化・業務の3施設を備えたりサイクル拠点施設「越谷市リサイクルプラザ」が開設

西暦	年代	事 歴	
2008	平成 20年	3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>越谷レイクタウン駅が開業</li> <li>市民保養施設おがの山荘を廃止</li> </ul>
		4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>越谷レイクタウンのまちびらきが行われる。</li> <li>越谷市安全で安心な防犯のまちづくり条例、越谷市路上喫煙の防止に関する条例を施行</li> </ul>
		8月 11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国高等学校総合体育大会剣道大会を開催</li> <li>市制施行50周年記念式典を開催。平和都市宣言をする。</li> </ul>
2009	21年	4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域コミュニティの拠点、大相模地区センターが新たに開設</li> <li>キャンベルタウン市と姉妹都市提携25周年を迎える。</li> </ul>
		6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>越谷市自治基本条例を制定</li> </ul>
		8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>越谷駅東口の再開発ビル建設工事に着工</li> </ul>
		10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>市長選において高橋努氏が当選</li> <li>越谷消防開設50周年を迎える。</li> </ul>
		11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>板川文夫氏が市長退任</li> <li>高橋努氏が市長就任</li> </ul>
2010	22年	4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉に関する総合窓口「福祉なんでも相談窓口」を開設</li> </ul>
		7～8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内13地区で「～なんでも話そう～市長とふれあいミーティング」を開催</li> </ul>
		10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>通院に係るこども医療費支給対象を中学校修了までに拡大し、子育て支援を強化</li> <li>希少植物の宝庫「越谷アリタキ植物園」開園</li> </ul>
2011	23年	1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光農業の振興と、担い手の育成を目的として「越谷いちご観光農園」を開園</li> </ul>
		3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>東日本大震災が発生。帰宅困難者対策、避難者支援、放射線対策を実施</li> </ul>
		4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>第4次越谷市総合振興計画が開始</li> <li>障がい者が地域で働き、安心して暮らしていける支援のために「越谷市障害者就労訓練施設しらこぼと」を開設</li> </ul>
		6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内産業の振興を目的とした「こしがやブランド認定制度」を開始</li> </ul>
		10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>蒲生駅前商店会に地域の支え合いと憩いの場「ふらっと」がもうを開設</li> </ul>
		2012	24年
2013	25年	4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>就学前児童の発達支援・相談拠点となる「越谷市児童発達支援センター」を増林に開設。これに伴い「みのり学園」「あけぼの学園」を廃止</li> </ul>
		9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>市北部に甚大な竜巻被害が発生。避難所の設置やがれき処理、見舞金や民間賃貸住宅への家賃給付金の支給等の支援を実施</li> </ul>

西暦	年代	事 歴
2013	平成 25年 10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大袋商店街に高齢者の交流の場「ふらっと」おおぶくろを開設</li> <li>・ 大袋駅の橋上化工事が完了し、東西自由通路が開通</li> <li>・ 市長選において高橋努氏が再選</li> </ul>
	12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出羽地区センター・公民館開館</li> </ul>
2014	26年 9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新しい南部図書室が開設</li> </ul>
	10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市指定有形文化財「旧東方村中村家住宅」が開館</li> </ul>
	11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ご当地ナンバー「越谷」の交付開始</li> <li>・ 越谷レイクタウン事業が完了</li> </ul>
2015	27年 2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市役所第三庁舎が完成</li> </ul>
	3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 越谷市夜間急患診療所を開設 夜間における小児から成人までの初期救急医療体制の拠点として整備</li> </ul>
	4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中核市・越谷が誕生 これに伴い、「越谷市保健所」を設置、消防本部に高度救助隊が発足</li> </ul>
	9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関東・東北豪雨の影響により、市内各所で大きな被害が発生</li> </ul>
	12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ノーベル物理学賞を受賞した梶田隆章氏が越谷市名誉市民に決定</li> <li>・ 地域包括支援センターを併設した老人福祉センター「ひのき荘」が開設</li> </ul>
2016	28年 2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ノーベル賞受賞の梶田隆章氏への越谷市名誉市民称号贈呈式を開催</li> </ul>
	3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 越谷市消防本部の高度救助隊が、埼玉特別機動援助隊（埼玉SMART）に登録</li> </ul>
	4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第4次越谷市総合振興計画後期基本計画が開始</li> <li>・ 越谷市商工会が越谷商工会議所へ移行</li> </ul>
	5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 越谷レイクタウン地区、都市景観大賞において大賞を受賞</li> </ul>
	8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 浄山寺の「木造地藏菩薩立像」が、越谷市で初の国の重要文化財に指定</li> </ul>
	9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リオデジャネイロオリンピック銅メダリストの星奈津美氏に市民栄誉賞を贈呈</li> </ul>
	3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 都市計画道路八潮越谷線が市内全線開通し、南北の往来の利便性が向上</li> </ul>
2017	4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病中や病気回復期のお子さんを一時的に預かる病児保育室を開設</li> </ul>
	5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 世界ベンチプレス選手権大会で山本茂樹さん・長尾優子さんが3年連続優勝</li> <li>・ 市の魅力を発信する観光物産拠点施設「ガーヤちゃんの蔵屋敷」が開設</li> </ul>
	8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校30校、中学校15校に空調設備の設置が完了</li> </ul>
	3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手話は言語であることを示す「越谷市手話言語条例」を施行</li> </ul>
2018	4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食を通じて地域の魅力を発信する事業「こしがや愛されグルメ」に50品を認証</li> </ul>
	9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 越谷を活動拠点とするバスケットボールチーム「越谷アルファーズ」が始動</li> </ul>
	10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ガーヤちゃんをあしらった越谷版図柄入りナンバープレートの交付を開始</li> </ul>
	11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市制施行60周年を祝い記念式典を挙行</li> <li>・ 越谷市ゆかりの著名人・団体を「こしがやの未来を創る魅力宣伝大使」に委嘱</li> </ul>
	3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「旧大野家住宅（はかり屋）」が国の登録有形文化財（建造物）に登録</li> <li>・ 越谷市出身の力士・彩尊光関が十両に昇進</li> </ul>
2019	31年 4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 働く子育て世代を応援する、こしがや「プラス保育」幼稚園事業が開始</li> </ul>

西暦	年代	事 歴	
2019	令和 元年	5月	・ 越谷市を拠点に活動するプロバスケットボールチーム「越谷アルファーズ」がB2リーグに昇格
		6月	・ 越谷市出身の力士・阿炎政虎関が小結に昇進
		8月	・ プラスチックごみの一層の削減に向け、越谷市役所プラスチック・スマート宣言
2020	2年	4月	・ 地域の保健医療の拠点施設となる新保健センターの供用を開始 ・ 越谷市医師会の協力で県内初のドライブスルー方式によるPCR検査センターを開設
		5月	・ 市立図書館が令和2年度子供の読書活動優秀実践図書館に選ばれ文部科学大臣表彰を受賞
		6月	・ 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い越谷市独自緊急経済対策を実施
		11月	・ 市内で初めてとなるものづくり体験交流イベントの越谷技博が開催
2021	3年	4月	・ 性的少数者の自由な意思を尊重する「越谷市パートナーシップ宣誓制度」を施行 ・ 第5次越谷市総合振興計画が開始
		5月	・ 越谷市民の安全・安心な暮らしを支える親しみのある新本庁舎の供用開始
		8月	・ 新型コロナウイルス感染症の入院待機者に対し在宅での応急的な措置を行う体制を整備
		9月	・ 東京2020パラリンピックメダリストの鈴木亜弥子選手と倉橋香衣選手に市民栄誉賞授与
		10月	・ 水耕栽培による越谷産メロンの名称が「越谷スカイメロン」に決定
		11月	・ 高橋努氏が市長退任 ・ 福田晃氏が市長就任
2022	4年	3月	・ 災害時における快適なトイレ環境を提供するため、県内で初めてトイレトレーラーを導入
		5月	・ 市内で初めて大林の「海道西遺跡」で平安時代の竪穴式住居と河畔砂丘地を示す砂地を発掘
		10月	・ 市役所・中央市民会館周辺エリアと大相模調節池周辺エリア2会場で市民まつりを初開催
		11月	・ 越谷市出身でこしがやの未来を創る魅力宣伝大使の阿炎政虎関が九州場所で幕内最高優勝
2023	5年	3月	・ ワールド・ベースボール・クラシック（WBC）日本代表の優勝に越谷市出身の宇田川優希選手が貢献
		3月	・ 約100年前に越谷市に落下した隕石の分類が確定。「越谷隕石」として国際隕石学会に登録
		6月	・ 台風2号に伴う大雨により市内約3,200件の住宅に被害が発生したため、令和5年度内に道路冠水センサーを50箇所設置する方針を決定
		7月	・ ガーヤちゃんが「こどもまんなか応援サポーター」を宣言
		7～10月	・ 花火大会、阿波踊り、市民まつり、産業フェスタ等各種イベント開催でコロナ禍前のにぎわいが戻る。

西暦	年代	事 歴
2024	令和 6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>3月 ・ 越谷市本庁舎建設事業が完了、エントランス棟がグランドオープン</li> <li>・ 越谷市立地域スポーツセンターが完成、竣工記念式典が開催される。</li> <li>4月 ・ キャンベルタウン市と姉妹都市提携40周年を迎える。</li> <li>・ 越谷市出身の力士・栃大海関が十両に昇進</li> <li>5～6月 ・ 越谷アルファーズB1昇格、祝賀パレード及び報告会が開催される。</li> <li>9月 ・ パリ2024パラリンピック車いすラグビー金メダリストの倉橋選手に市民栄誉賞授与</li> </ul>
2025	令和 7年	<ul style="list-style-type: none"> <li>1月 ・ 越谷市ブランドメッセージ「水遊都市KOSHIGAYA」発表セレモニーを開催</li> <li>3月 ・ 水遊都市KOSHIGAYAのロゴマークを越谷市民が折り紙で作った「シラコバト」で表現。折り紙で作った最大の文章としてギネス世界記録に認定</li> <li>4月 ・ 大沢第一保育所と中央保育所を統合した「緑の森公園保育所」が開所</li> <li>7月 ・ 叡明高校が甲子園初出場</li> <li>11月 ・ 市長選において福田晃氏が再選</li> <li>12月 ・ 75歳以上の市民を対象としたバス・タクシーのキャッシュレス運賃補助を行う公共交通サービス「越谷げんき de MaaS」の運用開始</li> </ul>

## 1-7. 名誉市民

- ・ 山崎 清 氏

生年月日 明治34年6月30日 推挙年月日 昭和38年6月20日  
(没) 昭和60年2月22日

故山崎清氏は、南埼玉郡越ヶ谷町に生まれ、大正8年3月に県立粕壁中学校を卒業、大正12年に日本歯科医学専門学校を卒業し、その後大正14年にフランス留学、昭和5年に帰国しました。

氏は、西欧でも有名な学者で、また顔の研究家としても知られ、医学、人相学及び随筆等数多くの著書を残すとともに、常に当地出身の子弟の育成に心血を注ぎ、市政発展の礎を築かれました。

- ・ 池ノ谷 与一郎 氏

生年月日 明治30年10月10日 推挙年月日 昭和44年9月18日  
(没) 昭和45年11月2日

故池ノ谷与一郎氏は、南埼玉郡大相模村に生まれ、大正6年3月に県立粕壁中学校を卒業、以来昭和21年4月までの29年間の永きにわたり教鞭をとり、数多くの子弟の教育に尽くされました。

また、昭和21年7月からは、大相模村村長に就任し、村長として昭和29年の町村合併の実現に尽力されました。合併になった越谷町においては、初代助役に就任し、以来町、市を通じ12年間越谷を築く原動力の一人として、地方自治発展のために多大の功績を残されました。

- ・ 大塚 伴鹿 氏

生年月日 大正4年9月9日 推挙年月日 昭和50年3月20日  
(没) 平成元年10月1日

故大塚伴鹿氏は、南埼玉郡越ヶ谷町に生まれ、昭和15年大東文化学院高等科を卒業後、幾つかの官職を歴任し、昭和26年12月19日、生まれ故郷の越ヶ谷町町長に就任。以来昭和45年10月1日までの19年間首長として、地域住民の生活の向上、福祉の増進等を図り、市政ばかりでなく広く地方自治そのものの発展に多大の功績を残されました。

- ・ 秋山 長作 氏

生年月日 明治29年12月5日 推挙年月日 昭和57年3月23日  
(没) 昭和58年5月21日

故秋山長作氏は、南埼玉郡蒲生村に生まれ、大正5年3月埼玉県師範学校本科第1部を卒業し、以来38年余の永きにわたり、教育の道一筋に専念されました。

また、昭和30年4月に越谷町の教育長に就任、そして昭和33年11月の市制施行後は当市の初代教育長に就任され、以来昭和45年10月に退任されるまでの15年間教育長として本市教育行政の進展向上のために多大の功績を残されました。

・ 梶田 隆章 氏

生年月日 昭和34年3月9日

推挙年月日 平成27年12月1日

梶田隆章氏は、埼玉県東松山市に生まれ、昭和60年に越谷市民となりました。昭和56年に埼玉大学を卒業、昭和61年に東京大学大学院後期課程を修了し、平成11年に東京大学宇宙線研究所教授、平成20年から同研究所所長を務めています。

氏は、素粒子ニュートリノが質量を持つことを発見。朝日賞、ブルーノ・ロッシ賞、バノフスキー賞など数々の科学賞を受賞し、素粒子物理学の進展に大きく貢献されました。「ニュートリノが質量を持つことを示すニュートリノ振動の発見」により、平成27年12月にノーベル物理学賞を受賞されました。

## 1-8. 憲章・都市宣言

### ・ 越谷市民憲章（昭和53年11月3日）

わたしたちは、越谷市民であることに誇りと責任を持ち、水と緑と太陽に恵まれた豊かなまちを築くため、限りない願いをこめて、ここに市民憲章を定めます。

1. 教養を豊かにし、人間性あふれる文化のまちをつくりま
1. きまりを守り、信じあい心豊かな明るいまちをつくりま
1. 自然を愛し、お互いに助けあい、きれいなまちをつくりま
1. 健康で楽しく働き、明るいスポーツのまちをつくりま

### ・ 越谷市子ども憲章（平成10年11月3日）

水と緑と太陽に恵まれた越谷市の未来を担うわたしたちは、夢と誇りを持ち、みんな仲良く助け合って生きていくことを誓い、ここに「越谷市子ども憲章」を定めます。

自立 わたしたちは、互いに認め励まし合い、自分の道を歩んでいきます。

責任 わたしたちは、礼儀正しく、きまりを守り、責任を持って行動します。

健康 わたしたちは、生命（いのち）を大切にし、明るく、たくましく生きていきます。

感謝 わたしたちは、思いやりの心と、“ありがとう”の気持ちを持ち続けます。

環境 わたしたちは、自然や文化を大切にし、環境にやさしくします。

### ・ 越谷市福祉憲章（平成11年9月15日）

わたしたち越谷市民は、生涯にわたって、すこやかに、いきいきと、人間らしく、川の流れるこの豊かなまちに、安心して暮らせることを願っています。

そのためには、個人、家庭、地域、企業、行政などが、しっかりと手をたずさえ、知恵をだしあい、それぞれの役割を自覚し、責任を果たしていかなければなりません。

すべての市民が、ふるさとと実感でき、愛着のもてる福祉のまちをめざして、この憲章を定めます。

ともに生きよう

かけがえのない あなたのいのち 明日に向けて みんなでつくろう やさしいまちを

（わたしたちは、一人ひとりが個性をもち、自立した、かけがえのない存在です。たがいに認めあい、励ましあいながら、やさしいまちをつくりま

ともにつなげよう

あなたのちから わたしの経験 知恵をだしあい みんなで築こう 住みよいまちを

（わたしたちは、一人ひとりがいろいろな能力や経験、知恵をもっています。ちからを発揮し、いかし、あわせて、住みよいまちをつくりま

ともにかけあおう

ほほえみと 思いやり 手を取りあって みんなで育てよう ふれあいのまちを

(わたしたちは、たくさんの人との支えあいや助けあいで、生きています。あたたかいところと、思いやりをもって、ふれあいのまちをつくります。)

ともに高めよう

すこやかな ところと体 明るい家庭 みんなで愛そう ふるさとのまちを

(わたしたちは、いつも幸せな日々を願っています。健康を守り、趣味をいかし、生きがいをもって、ところ豊かに暮らせる、ふるさとのまちをつくります。)

・ **安全都市宣言** (昭和37年3月)

最近における産業、経済、文化の発展と交通量は極度に増加し、交通事故が頻発して大きな社会問題となっている。また火災の発生も文化生活の向上、暖房用火器具類の発達普及に併行して増加の傾向にある。よって全市民とともに安全都市造成の理想を達成するため「安全都市」とすることを宣言する。(抜粋)

・ **スポーツ・レクリエーション都市宣言** (昭和49年9月26日)

水と緑と太陽に恵まれた私たちのまち越谷市も急激な開発と人口増加により、美しい自然と生活様式に大きな変化がもたらされました。私たちは、いつも美しい自然にあふれ健康で明るく人間性豊かなまち越谷でありたいと思います。

私たちは、一人一人が生涯をとおしてスポーツ・レクリエーションに楽しみ、健康でたくましい心とからだをつくるとともに、さらに市民の交流を深め連帯感に支えられた明るく豊かな住みよいまちを築くことを誓い、次の目標をかかげて越谷市を「スポーツ・レクリエーション都市」とすることをここに宣言します。

- ・すべての市民がスポーツ・レクリエーションを楽しみましょう。
- ・すべての市民がスポーツ・レクリエーションのできる場をつくりましょう。
- ・すべての市民がスポーツ・レクリエーションに進んで参加しましょう。
- ・すべての市民が身近にスポーツ・レクリエーションのできる仲間をつくりましょう。

・ **文化都市宣言**（昭和58年11月3日）

清らかな川の流れと豊かな緑、青い空。

昔から水郷こしがやとして親しまれてきた

わたしたちの郷土は、先人たちが遺（のこ）してくれた

かけがえのないふるさとである。

わたしたちは、

先人から受け継いだ恵みを守り、はぐくみ、

さらに、人間愛に満ちた

ゆとりと潤いと安らぎのある文化のまちを創（つく）って、

次の世代に引き継いでいこう。

みんなで心と力をあわせて、

わがまち越谷 とだれもが誇れるまちづくりをすすめ、

生涯を心豊かに過ごせるような市民生活を築いていこう。

市制25周年にあたり、

越谷市を「文化都市」とすることを宣言する。

・ **平和都市宣言**（平成20年11月3日）

わがまちは、古くから「水郷こしがや」として親しまれてきた水と緑と太陽に恵まれた美しいまちであります。

そして、このかけがえのない自然と明るく平和なくらしは、越谷市民すべての願いであります。

わが国は、先の大戦による戦禍にみまわれ、世界で唯一の被爆国として、尊い命や貴重な財産を失ってきました。この戦争の悲惨さや核兵器の恐ろしさを後世に伝えていかなければなりません。

わたしたちは、未来に向けて平和で豊かな社会を築き、美しい自然環境を新しい世代に引き継ぐため、人類共通の願いである世界の恒久平和実現を希求し、市制施行50周年を期して、ここに平和都市宣言をいたします。

1-9. 国際交流（姉妹都市交流）

提携都市 キャンベルタウン市（オーストラリア）

提携年月日 昭和59年（1984年）4月11日

（単位：人）

事業内容		昭和59年度～ 令和5年度	6年度	7年度	総 数
青少年交流	青少年・中学生使節団派遣	860	16	16	892
	青少年使節団受入	493	17	17	527
	その他使節団派遣	477	0	0	477
	その他使節団受入	456	0	0	456
	計	2,286	33	33	2,352
行政人事交流	職員派遣	11	1	0	12
	職員受入	13	0	1	14
教員人事交流	教員派遣	13	1	1	15
	教員受入	1	0	0	1

資料：市民活動支援課

1-10. 越谷都市計画区域の変遷

告示年月日	告示番号	区 域
昭和32年10月12日	建告第1263号	越谷市（当時町）の全域を決定
昭和40年12月28日	建告第3553号	吉川市（当時町）を編入
昭和41年12月28日	建告第4272号	松伏町（当時村）を編入
平成16年4月27日	埼告第867号	春日部市との行政界の変更

資料：都市計画課

1-11. 地目別土地面積

各年1月1日

（単位：km<sup>2</sup>）

年	総 数	田	畑	宅 地	池 沼	山 林	原 野	雑種地	その他
令和5	60.24	8.80	3.77	24.74	0.52	0.11	0.12	4.46	17.72
6	60.24	8.73	3.74	24.85	0.52	0.11	0.12	4.44	17.73
7	60.24	8.64	3.71	24.92	0.52	0.11	0.12	4.48	17.74

（注）小数点以下第3位四捨五入のため、総数と内訳は必ずしも一致しない。

資料：資産税課

1-12. 地目別土地面積割合

各年1月1日

（単位：％）

年	総 数	田	畑	宅 地	池 沼	山 林	原 野	雑種地	その他
令和5	100.0	14.6	6.3	41.1	0.9	0.2	0.2	7.4	29.3
6	100.0	14.5	6.2	41.3	0.9	0.2	0.2	7.4	29.3
7	100.0	14.3	6.2	41.4	0.9	0.2	0.2	7.4	29.4

（注）小数点以下第2位四捨五入のため、総数と内訳は必ずしも一致しない。

資料：資産税課

1-13. 主要河川

（単位：km）

河川名	中 川	元荒川	綾瀬川	新方川	大落古利根川	会之堀川	古綾瀬川
市内流路延長	4.36	12.40	5.81	10.68	10.50	0.41	0.90

資料：河川課

1-14. 気象の概況

各年中

年	天気日報					気 温 (°C)			平均湿度 (%)	総降雨量 (mm)	平均風速 (m)	最多風向
	快晴	晴	くもり	雨	その他	最高	最低	平均				
平成30	80	137	112	32	4	38.6	-3.7	16.7	70.3	1,138.5	2.2	北西
令和元	84	110	131	38	2	37.3	-2.0	16.3	70.5	1,408.5	2.2	北西
2	79	125	119	42	1	38.7	-3.1	16.3	71.6	1,243.5	2.1	北西
3	95	121	105	44	0	37.4	-4.4	16.4	64.9	1,520.5	1.9	北北西
4	57	152	119	36	1	39.2	-4.2	16.2	67.6	1,177.0	1.9	北北西
5	57	182	88	37	1	39.4	-3.1	17.5	66.0	1,120.0	2.0	北北西
6	48	157	116	43	2	40.1	-2.3	17.5	69.1	1,248.0	2.0	北北西
7	59	164	109	32	1	39.4	-1.5	17.2	68.6	1,058.5	2.0	北西
令和7年1月	9	15	7	0	0	14.0	-1.5	6.0	54.0	29.0	2.0	北西
2月	14	11	2	1	0	16.7	-0.7	5.8	44.0	5.0	2.6	北西
3月	4	10	12	4	1	26.0	0.2	10.3	64.9	138.5	2.3	北西
4月	2	15	10	3	0	28.7	3.0	15.5	68.0	104.5	2.3	南
5月	2	11	13	5	0	31.9	11.4	19.0	75.8	181.0	2.0	南南東
6月	3	12	9	6	0	36.0	14.3	25.2	76.8	157.5	1.7	南東
7月	3	19	9	0	0	36.9	20.5	29.1	76.0	46.5	2.1	南
8月	0	21	7	3	0	39.4	23.5	29.8	76.8	136.5	2.0	南東
9月	3	15	10	2	0	37.9	17.5	26.5	78.6	129.0	1.8	東北東
10月	0	10	16	5	0	28.7	9.2	18.3	79.6	94.5	1.8	北
11月	8	15	6	1	0	22.7	3.5	12.5	65.1	10.0	1.7	北北西
12月	11	10	8	2	0	20.9	-1.2	7.7	61.8	26.5	1.8	北西

資料：消防局・指令課